

# 教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2  
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732  
<http://www.catholic-honjyo-church.org>

## INDEX

- 「都バスの話」  
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「日本二十六聖人殉教者祭  
殉教者ミサ」
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

### 「都バスの話」

主任司祭 パウロ 豊島 治

三月のご挨拶を申し上げます。

四旬節に入りました。四旬節の意義については、教皇様、大司教様がメッセージをお出しになられているので、今回の巻頭言は私の昔話にお付き合いください。

私の子どものころ四旬節は「お菓子なし」という期間でした。経済的な事情もあったかと思いますが、買ってくるお菓子はおやつ時でも存在しませんでした。でも自分でつくるのは別です。友達は四旬節であろうとなかろうと家に集まっていたので自作でと、なりま

す。親のいないのを見計らい、卵と牛乳と耐熱容器をだし、蒸し器をつかってレシピなしの想像だけです。さながら小学生の料理実験といいたしうか、とても食べようと思えない映えの卵料理が現れ、証拠隠滅のため全員責任をもって食しました。同窓会ともなると毎回その話題になります。

我が家ではもうひとつ、四旬節中は教会へは歩いて通うという決まりがありました。徒歩で一時間。退屈でしたし、その分、早起き、早出ししなければなりません。

普段は親とバスで教会まで行きました。都営バスです。白地に青帯の車体はいつまでつづいたかわかりませんが、当時大人五十円だったと記憶しています。家の前から教会の前まで十五分間隔でした。車掌さんも同乗していました。座席に座ると近づいてきて料金を徴収します。降車ブザーは今のよう

このマンツーマンのコンビネーションが好きでした。今のバス車両には降車ドア近くの車掌スペースは跡形もなくなっていきますが。

幼少のとき、四旬節中に私は何がきっかけかわかりませんが、はぐれてしまった事があり、帰るのが不安になりました。心細くなっていたら、いつものバスが近づいてきます。でもお金はありません。車掌用の窓が開き、「どうぞ」と招きます。親とはぐれた旨をつたえると、あとでおうちの人に払ってもらうからいいよ。という旨の返事をいただき、親より一足早く、家に着くことができました。これが我が人生初の「つけ払い」です。

振り返ってみて、自分はどれほど愛してくださる神に対してツケがあるだろう、どれだけこたえているだろうかと考えます。考えても究極の答えは出てこないと思いつつ、せめてこの四十日は想いをあらたにする課題をもってみたいとおもいます。



「感染症の影響は  
いまだバス運行に  
影響しています」